

第3学年 外国語学習指導案

1 単元名

Unit 4 Be Prepared and Work Together (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元について

○教材観

本単元では、外国から日本へ留学しているメグが、自分が住んでいる市の外国人を対象とした、災害に対する意識調査に触れたことをきっかけに、防災について同級生に尋ねたり、災害時の外国人支援についてのテレビ番組を見たりして、情報を得て、災害に対する意識を高めていく内容となっている。また、その中で、日本に来た外国人が、災害時に避難所の場所を知らなかったり、乗っていた電車が地震の影響で止まった際のアナウンスが日本語だったため理解できなかったりするなど、外国人の体験談なども含まれている。更には、若葉市の外国人支援の取り組み内容が紹介されており、災害に対する備えの意識を育むことと、災害時に外国人も含め、いかに地域で助け合っていくか、ということに焦点が当てられている。

○生徒観

3年4組は、男子17名、女子19名、計36名のクラスである。英語の学習に対して前向きであり、英語での問いかけに対し、積極的に英語で答えることができたり、クラスメイト同士で簡単な英語を用いてやり取りできたりするなど、教師が指示すれば、英語でのやり取りを抵抗なく行うことができる。

しかし、使用する単語や表現がやや複雑になると、それをうまく活用できなかったり、日本語に頼ってしまったりする生徒も多いる。また、話す活動や書く活動において翻訳アプリに頼ってしまう生徒も少なからず見受けられる。教科書で学習した表現を使用すれば、今よりも幅広いやり取りができるということや、自分の伝えたいこと(内容)が、教科書のどの表現を使用すれば伝えることができるのかを指導していきたい。

また、学習した英語を日常生活のどの部分で活用できるかということを考えられる生徒が少ない。実際に英語を使用してみたいと思う目的・場面・状況を設定し、生徒自身が活動を行う中で、英語の有用性について感じることができるよう、指導を行いたい。

○指導観

本単元は、防災に関する単語が多く登場する。それらの単語は、生徒の日常生活においては、あまり馴染みのない単語でもある。そのため、単元の導入において、防災に関する表現にある程度触れておきたい。方法としては、ピクチャーカードを用いて、そこに写っている絵や写真に関してオーラルインタラクションを行い、その中で単語を発音したり、黒板やワークシートに文字として示したりすることができるようにする。

そのようなかたちで、ある程度防災に関する単語に触れた上で、教科書本文や文法の学習を行いたい。Scene 1 では緑市外国人市民意識調査の内容であり、外国人の防災に関する意識を読み取る学習を行う。自分の身近に住む外国人は防災に関してどの程度の意識を持っているかということを考え、単元末のパフォーマンス課題に繋がられるよう指導したい。Scene 2 においては、留学生のメグが防災バッグを未だ準備しておらず、中に何を入れるのか日本人の友人である朝美に相談する対話が内容となっている。外国人という立場であるメグの防災意識を本文から読み取らせ、Scene 1 同様にパフォーマンス課題に繋がられるような指導を行いたい。

Read & Think 1 においては、実際に日本に在住あるいは旅行に来て、災害に遭い困った経験をした外国人のモノログが登場する。2つのケースの外国人の体験談を、教師による発問によって理解させたい。特に、発問の中に自己関連的な質問を入れることによって、教科書本文の外国人の体験は、決して他人事ではなく、自分の身近にいる外国人にも起こりうることであることを意識させたい。そこまで意識させた上で、教科書に登場する外国人に対して、どのような配慮が必要か、あるいはどのようなことに困っているかということを、本文を通じて考えさせ、単元末のパフォーマンステストへとつなげることで、方略調整を行わせたい。Read & Think 2 も 1 と同様に本文指導を行い、内容を充分理解させると共に、本文に書かれている外国人支援の取り組み内容や、英語表現が単元末のパフォーマンス課題で活かすことができるよう指導を行いたい。

3 教科研究との関わり

(1)「主体性」を持って学ばせるための工夫について

「主体的な学びのプロセスモデル」を、生徒自らが活用できるよう、単元全体および、一時間の授業の中で実践する。さらに、学習者である生徒自身が「主体的な学びのプロセスモデル」の有用性に気づき、それを活用して学習を進めることができるよう、各学習過程における「学習方略」をスキルとして身につけさせることを意識する。パフォーマンス課題については、単元のはじめにルーブリックを示すことで、具体的なゴールへのイメージを持たせ、見通しを持って学習に取り組めるようにする。また、実生活に即した課題(活動)となるよう、現実的な内容を考えられるトピックを設定し、課題を自分事または現実的なこととして考えられるようにする。それによって、生徒自身が課題解決に向けて自己調整をしながら粘り強く学習し、資質・能力を高めることができるようにする。

(2)「創造性」を発揮させるための学習活動の工夫

「創造性」を発揮させるために、指導者である教師が、既習事項を新たな学習へと繋げることを意識したい。そのために、重要となるのが、発問やデモンストレーション、インタラクションなどであると考え。本単元で扱われている災害・防災というものは、生徒にとっても身近な題材である。私たち日本人だけではなく、外国から日本へ来た人々が災害時に困らないため、また、互いに助け合って防災に努めるためには、どのような知識が必要か、どのようなものを準備しておく必要があるのかということなども含めて考えられるような発問作り、活動作り、パフォーマンス課題等を考えたい。また、振り返りシートを単元末のパフォーマンス課題へとつなげられるものにするのと同時に、生徒同士が共有できる機会を設けることによって、既習事項を新たな学習へと繋げていけるようになることを期待する。

4 CAN-DO リストの形での学習到達目標(第3 学年)

山梨大学教育学部附属中学校版 CAN-DO リスト(新学習指導要領対応)との関連

	話すこと(やりとり)
3年生	○社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由等を、簡単な語句や文を用いて○往復程度で述べ合うことができる。

5 単元の目標

日本に住んでいる外国人が災害時に困らないために、災害・防災に関して書かれた英文を読み、それらを基に、外国人の知りがっている情報や知っておくべき情報を把握し、考えたこと感じたことを、理由も含め、読んだ英文の中に使用されていた語句や表現を用いてやり取りをすることができる。

6 言語材料

○表現

I know where the local shelter is. [間接疑問文]

Tell me what you have done. [疑問詞＋主語＋動詞]

We spoke to a police officer passing by. [現在分詞の後置修飾]

They followed instructions given in English. [過去分詞の後置修飾]

既習

It's necessary for us to be prepared... / made by... / It shows you... / how to use...

○語彙

prepared / disaster / shelter / store / extinguisher(fire extinguisher) / survey / in case of～ / done / emergency / kit / link / earthquake / terrible / shaking / drove, drive / parking lot / scared / finally / announcement / latest / fortunately / traveler / too... to～ / get out / pass by / on the way back / go back / evacuation / drill / resident(s) / visitor(s) / simulation(s) / themselves / instruction(s) / given, give / simple / interview(ed) / hand out / evacuation map / evacuation area / landslide / flood / fire / tsunami / local shelter / community center / industrial hall /

7 単元の評価規準

	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
話すこと(やり取り)	・間接疑問文、動詞＋(人)＋疑問詞、現在分詞・過去分詞の後置修飾のきまりや、活用するための表現を理解している。 ・災害・防災について、間接疑問文、動詞＋(人)＋疑問詞、現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いて伝え合う技能を身に付けている。	日本に住んでいる外国人が災害時に困らないために、災害・防災に関して書かれた英文を読み、それらを基に、相手の尋ねていることを理解したり、相手の知りたい情報、あるいは知っておくべき情報を把握したりし、読んだ英文の中に使用されていた語句や表現を引用するなどして、伝え合っている。	日本に住んでいる外国人が災害時に困らないために、災害・防災に関して書かれた英文を読み、それらを基に、相手の尋ねていることを理解したり、相手の知りたい情報、あるいは知っておくべき情報を把握したりし、読んだ英文の中に使用されていた語句や表現を引用するなどして、伝え合おうとしている。

8 単元の指導と評価の計画(全8時間)

時間	○目標 ・主な学習(言語)活動	主体的な学習のプロセスモデル	評価			
			知	思	主	評価規準(評価方法)
1	○単元の目標を生徒と共有する。 ○災害・防災に関する語句や表現を聞き、その意味を理解できる。 ・スモールトーク ・オーラルインタラクションをしながら、災害・防災に関する語句や表現を聞き、また、発音し、その意味を理解する。 ・教科書の Preview の内容を聞き、オーラルインタラクションで内容を確認する。	目標設定 方略計画				ワークシートの記述点検
2	○教科書本文を読み、内容を理解する。また、災害・防災に対して、どのようなことを知っていることが大切であるかを考えることができる。 ・教科書本文を読み、オーラルインタラクションを通じて内容を理解し、外国人が知っておくべき情報について考える。	遂行 振り返り				ワークシートおよび振り返り欄の記述点検
3	○教科書本文に出てきた語句や表現を引用しながら、防災について、自分たちの知識の有無を確認し合うことができる。 ・災害・防災に対して、外国人がどのようなことを知っていることが大切であるかを緑市の調査結果を踏まえて考える。 ・読んで理解したり、音読したりした本文を用いて、防災について、自分たちの知識の有無を確認し合う。 ・間接疑問文について、意味や形式等を理解し、運用することができる。	方略計画 遂行 振り返り				ワークシートおよび振り返り欄の記述点検
4	○教科書本文(対話文)を読み、内容を理解し、本文を引用しながら災害・防災について、自分自身のことを伝え合うことができる。 ・教科書本文を読み、オーラルインタラクションを通じて内容を理解する。	方略計画 遂行 振り返り				ワークシートおよび振り返り欄の記述点検

	・読んで理解したり、音読したりした本文を用いて、災害・防災に対しての自分自身の対策状況についてペアで伝え合う。 ・疑問詞＋主語＋動詞の文について、意味や形式等を理解し、運用することができる。					
5 本時	○日本で地震に遭遇した外国人の体験談の文章を読み、本文に書かれていることを基に、その外国人が困っていること、持っている防災知識、持っていない防災知識等までを考え、自分たちにできる外国人支援の取り組みをイメージし、アドバイスを考えることができる。 ・教科書本文を聞いたり読んだりし、オーラルインタラクションや発問を通じて内容を理解する。 ・教科書本文の内容を深く理解した後に、自分たちがどのような取り組みや支援ができるか考え、教科書本文に登場した外国人へのより良いアドバイスを考える。	方略計画 遂行 振り返り	○	○	○	ワークシートの記述点検 行動観察 振り返りシートの記述点検
6	○外国人支援の取り組みについて書かれた教科書本文を読んで概要を理解できる。 ・教科書本文を読み、オーラルインタラクションを通じて内容を理解する。	方略計画 遂行 振り返り	○			ワークシートの記述点検 振り返りシートの記述点検
7	○新出文法について意味や形式等を理解し、運用することができる。 ・現在分詞・過去分詞の後置修飾について理解する。 ・外国人にもわかりやすい防災標識を作成する。また、作った標識について、現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いて、何を表しているのかななどを伝え合う。	遂行 振り返り		○		行動観察 振り返りシートの記述点検
8	パフォーマンステスト		○	○	○	

パフォーマンステストについて

・パフォーマンステストの内容

あなたの近所に住む外国人の A さんは、つい先日大きな地震を経験しました。母国ではここまで大きな揺れを経験したことがなく、揺れている間や揺れがおさまったあともどのように行動して良いのかわからなかったそうです。A さんの話を聞き、より良いアドバイスをしましょう。

・パフォーマンステストにおけるルーブリック(評価規準)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	文法・表現に誤りがなく、既習の語句や表現を用いて、災害について伝え合うことができている。	自分と同じ地域に住む外国人が困ることがないように、災害時の対応について、その外国人にとって必要な情報や自分の考え、気持ちなどをやり取りし、会話を継続・発展させている。	自分と同じ地域に住む外国人が困ることがないように、災害時の対応について、その外国人にとって必要な情報や自分の考え、気持ちなどをやり取りし、会話を継続・発展させようとしている。
b	文法・表現にやや誤りはあるが、既習の語句や表現を用いて、災害について伝え合うことができている。	自分と同じ地域に住む外国人が困ることがないように、災害時の対応について、情報や自分の考え、気持ちなどをやり取りし、会話を継続させている。	自分と同じ地域に住む外国人が困ることがないように、災害時の対応について、情報や自分の考え、気持ちなどをやり取りし、会話を継続させようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

パフォーマンステストにおける具体的なゴール

T : Last week, there was a big earthquake. Do you remember?

I was so scared. I couldn't do anything.

S : Do you know how to move?

T : No. What should I do?

S : You should move under the desk.

T : I see.

S : After the shaking, you should go to the local shelter. Do you know where the local shelter is?

T : No, I don't. Where it is?

S : It's Hokushin elementary school near here.

T : OK, but I need a map and many information on the internet was in Japanese.

S : I'll tell you where you can get a map, and when you can't understand Japanese, please come to my house.

T : Thank you.

9 本時の学習

(1)日時 11月23日(木・祝)

(2)場所 3年4組教室

(3)目標

身近な外国人が災害時に困らないために、外国人の災害時の体験談を読み、本文に書かれていることを基に、その外国人が困っていること、持っている防災知識、持っていない防災知識等までを考え、自分たちができる外国人支援の取り組みをイメージし、アドバイスを考えることができる。

(4)展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ○評価規準(評価方法)
5分	○Greeting ・あいさつをする	・あいさつをする	既習の文法や表現を使用する
10分	○Warm-up ※帯活動 ・Small Talk トピック : What is the most important information for foreigners to prepare for disaster? (外国人にとって防災のために最も重要な情報とは?)	・topicの提示 ・中間指導	・トピックに対して選択肢を提示し、最も重要な情報はどれかを選択させる
25分	○本文指導 ・語彙の確認 ・本文を聞いたり読んだりして、外国人へのアドバイスをワークシートに記入してみる。 ・本時の目標の確認	・オーラルインタラクションを通じた語彙の確認を行う。 ・アドバイスを記入するよう指示する。 ・本時の目標の提示	
	【Today's Goal】 How can we help them in a disaster? Let's make the best advice for him / her.		
	・本文の理解 ・教師の発問に答える。 ・事実発問→推論発問という順で発問に答える。	・本文に関する発問をする ・事実発問→推論発問という順で発問に答える。 例)・In case 1, after the terrible shaking, what did the man do? ・Can this man and his wife	既習あるいは、パフォーマンステストで生徒に考えてほしい内容の発問をする

		understand Japanese? Why do you think so?	
5 分	○Mini Activity ・本文を深く理解した上での，外国人へのアドバイスをワークシートに記入する。		
5 分	○Reflection ・振り返り欄に，本文を読んでみて感じたこと，上段と下段に自分が記したアドバイスを比較してみて感じたことなどを記入する。		

ワークシート 1

Today's Goal

Case 1（日本在住のバングラデシュ人男性）

When the earthquake began, I didn't know what was happening. After the terrible shaking, I ran out of my house with my wife. We didn't know where to go, so we drove to a supermarket parking lot. We stayed in our car for five hours. We were too scared to get out.

Finally, we spoke to a police officer passing by. He guided us to the local shelter. I didn't know about it until then.

Case 2（旅行中だったフランス人女性）

My friend and I took a day trip by train. On the way back, there was a big earthquake. Trains stopped running. The announcements at the station were in Japanese. We looked on the internet, but all the latest information there was in Japanese, too.

Fortunately, there was a woman speaking to some travelers in English. She told us how to go back.

Question 1

Question 2

Question 3

Question 4

1

本文を最初に聞いたり読んだりしてアドバイスを書く欄

2

本文を理解した上でアドバイスを書く欄

reflection

振り返り欄